



## よくある質問にお答えします

医薬情報研究所 株式会社エス・アイ・シー 取締役  
堀 美智子 先生

**Q** 「水仕事をする事が多く、手が荒れてしまいました。そこでゴム手袋を使うようにしたのですが、手荒れがもっとひどくなったみたいで・・・」と患者さんから尋ねられました。どのように対応したらよいのでしょうか。

**A** ゴム手袋による接触皮膚炎の可能性が考えられ、ステロイド軟膏などで炎症を抑える必要があります。原因物質の1つとして、ゴム手袋に使用されている加硫促進剤であるテトラメチルチウラム ジスルフィド(TMTD)が接触皮膚炎診療ガイドライン(日皮会誌:119(9),1757-1793,2009)に紹介されています。

また、ゴム手袋の多くに使用される天然ゴムラテックスによるアレルギーについても注意が必要です。天然ゴムラテックスは、パラゴムの木(Hevea brasiliensis)に傷をつけて得られる白い液体で、この中に含まれる蛋白質にアレルギーを示す「ラテックスアレルギー」の人が、近年、増えているといわれています。

特に、感染予防のために、ゴム手袋を使用する医療従事者に増えています。医療現場で使用されるカテーテル類、ドレーン類、聴診器、酸素マスクなども、天然ゴムラテックスを含んでいる製品が多く、ラテックスアレルギーの人が、これらを使用したときに問題となります。医療従事者の3~12%、一般の人でも1~6%が、ラテックス抗原に対する抗体を持ち、感作されているといわれています。

症状としては、天然ゴムラテックスに触れた部分の痒みや赤みのほか、顔の腫れや鼻水、くしゃみ、喉の痒み、全身性の蕁麻疹、喘息発作などがみられることもあり、稀に重篤なアナフィラキシーショックを起こすケースもあります。症状が皮膚に限られる場合は、抗ヒスタミン薬や抗アレルギー薬、ステロイド剤の内服により症状は軽快しますが、大切なのは予防であり、アレルギー症状を起こさないようにすることです。

天然ゴムラテックスは、伸縮性や弾力性に優れ、価格的にも安いことから、医療現場以外でも、おしゃぶり、下着のゴム、コンドーム、ゴム風船、自転車のハンドルグリップ、ボールペンの滑り止めなど、日用品にも広

く用いられています。

ゴム手袋は、医療用、介護用、炊事用などとして様々な場面で使われるので、特に注意が必要です。ゴム手袋の中には、手袋の内側にコーンスターチパウダーを塗布したものがあります。これは、手袋同士がくっつかないようにし、滑りをよくするために施されているのですが、そのパウダーには多量のアレルゲンが吸着しています。それを吸い込むことによって、症状を発現することも少なくなく、手が荒れている人では、傷口からアレルゲンが入り込み、感作されやすくなることも考えられます。そこで、最近では、パウダーフリーの手袋の使用が勧められています。

さらに、ラテックスアレルギーを示す人のうち30~50%は、クリ、バナナ、アボカド、キウイなどの果物で、口の中の痒みや違和感、蕁麻疹といったアレルギー症状を生じることも知られています。これは、「ラテックスフルーツアレルギー」とか「ラテックスフルーツ症候群」と呼ばれ、これらの果物に含まれる蛋白質とラテックスに含まれる蛋白質が類似しているために起こる交差反応によるものとされています。

今回の質問の場合は、「他のゴム製品にかぶれたことはないか」、「アボカドやバナナなどを食べて、口の中が痒くなったことはないか」なども確認することで、ラテックスフルーツアレルギーの可能性について検討します。その可能性がある場合には、アレルギーの有無を明確にするために、検査を受けるように勧めます。その結果、ラテックスフルーツアレルギーであれば、その後、医療機関を受診するときには、その旨を医療従事者に伝えるように指導することが、ゴムを含む様々な医療用品の使用によるアレルギー症状の回避に重要です。

